

研究テーマ：自己表現力(書く力)を伸ばすための指導の工夫

所属 土佐市立戸波中学校
氏名 松本 直子
RG JH4

【1. 研究の背景】

全校生徒 68 人の小規模校。素直で優しい子どもたちだが、保育園からクラス替えのない集団で、仲間に対する固定観念も見られ、チャレンジ精神に乏しい子どもも目立つ。そのような集団の中で、英語学習を通して、「やればできる。」「こんな一面もあったのか。」と、自他ともに新しい発見をし、自尊感情を育んでいく一端を担いたいと考えている。

小規模校の長所として、3年間あるいは小中連携により5年間、ともに学習できることにより、全校生徒を細かく把握でき、タイムリーな指導ができることが挙げられる。そのためか、子どもたちはたいへんフレンドリーで、英語を「話すこと」には抵抗なく、ALTの来校を心待ちにし、対話を楽しんでいる。反面、反復練習、家庭学習の習慣が定着していない子どもが多く、全体的に「書く」力が弱い。その中でも特に、自己表現力の弱さが目立つ。

【2. リサーチクエスチョン】

語彙や基礎的な文法を定着させ、自己表現力(書く力)を伸ばすにはどのようにすればよいか。

【3. 予備調査】

(1) 観察結果(FD内の授業案も参照)

- ・ALTとの応答には比較的慣れていて、対話を楽しんでいる生徒も多い。しかし、答えが単語レベルであったり、文法的なミスが目立つ生徒が多い。
- ・グラマーポイントは、新出の時は理解し、基本的な文を使つての活動はできているが、定着率が低い。
- ・特に「書くこと」において、スペルのミスや文法的ミスが目立つ。

(2) 4月実施のCRT分析結果(詳細はFD内)より(2,3年生 44名対象) ○ = 成果 ● = 課題

<2年生>

- 4領域が偏りなく(男女差もなく) 全国レベルになった。(4領域平均全国比103)
- 簡単な英語を聞き取る力、簡単な質問に応答する力がついた。(全国比106)
- 英文の内容を正しく理解する力が弱い。(全国比97)
- 単語を正しく覚えていない。特に、曜日・月名・人称代名詞の語形変化(全国比73)
- 疑問詞を使った質問文が苦手である。(全国比80)
- 伝えたい内容を考え、正しく書く力が弱い。(全国比101)

<3年生>

- 簡単な英語を聞き取る力、簡単な質問に応答する力が大幅に向上した。(全国比120)
- 理解の能力も高くなってきている。(全国比103)
- 単語力の弱さが気になる。(全国比98)
- 伝えたい内容を考え、正しく書く力が弱い。(全国比97)
- まとまった文のあらすじや重要部分を理解することが苦手である。(全国比95)

1学期中間テスト(5月27日実施)・期末テスト(7月7日実施)結果より(数値は課題1を参照)

- 自己表現の問題も空欄で提出する生徒はいない。何かを書こうとする意欲は見られる。
- 言いたいことは伝わるが、スペルのミス、文法的ミスがまだ目立つ。

(3) 生徒への意識アンケート(5月初旬実施:【6. 結果の検証】参照)より

「書くこと」のなかでも特に「自己表現」活動を難しいと感じている生徒が多いことがわかる。

特に、既習の語彙数が増え、ターゲットセンテンスも複雑になってきた3年生に顕著である。

(4) 授業評価の結果(FD内「切磋琢磨集計」参照)

(5) 文献から得たこと

ア. 英語力の向上を目指すリサーチは、教師と生徒の目的意識が合致していれば、比較的容易にできる。

イ. まず、生徒の能力を測定する。直後のアンケートで生徒がどこに困難を感じたのかも調査する。

ウ. 生徒の様子を詳しく観察し問題点を発見したら、アンケートや生徒の作品の分析などから対応策を考え

出し、仮説自体を柔軟に変更することが大切である。

参考文献 「STEP 英語情報」2002.9・10月号、2002.11・12月号

【 4 . 仮説の設定】

- 仮説 1 : 生徒同士のペアワークの際、話す・聞くだけの自己表現活動に加え、得た情報を「書く」活動を取り入れることにより、自己表現に対する苦手意識を少なくすることができる。
- 仮説 2 : 自己表現の問題に触れる機会を多く取り入れることにより、より正確に自己表現できるようになる。

仮説 3 : 新出単語の定着のため、ペアで「読む、意味理解、書く」活動を取り入れることにより語彙数を増やすことができる。

【 5 . 計画の実践】

仮説 1 : *従来使ってきたペアワークの際のワークシートを改善し、まずは書くことへの抵抗感を少なくする。慣れてきたら、レベル 2 (ヒントを見ずに書く) へ進む。

*活動直後の従来の評価(Gold・Silver・Bronze Medal 獲得)に加え、スペルチェックや声がけなど、よりきめ細かい評価をすることで、次への意欲づけにつなげる。

仮説 2 : *「選択英語」の時間を利用して、確認プリントの中に身近な自己表現の問題を毎時間入れ、自己表現することに慣れさせる。

*自己評価カードを記入することで、課題の発見と次への意欲づけにつなげる。

仮説 3 : *「Enjoy Learning Words」カードを使って、ペアで相互評価しながら新出単語の定着を図る。

【 6 . 実践の結果】

1 学期中間テスト (5 月 2 6 日実施) と 2 学期期末テスト (1 2 月 9 日実施) 結果比較

観点別到達度	3 年 生		2 年 生	
	中間 : 平均 63.0 点	期末 : 平均 68.7 点	中間 : 平均 61.6 点	期末 : 平均 66.2 点
観点 2 : 表現の能力	53%(50 点中)	60% (37 点中)	45%(40 点中)	71% (41 点中)
(その内) 自己表現力	47%(12 点中)	63% (25 点中)	41%(24 点中)	65% (28 点中)
観点 3 : 理解の能力	68%(26 点中)	73% (37 点中)	73%(40 点中)	65% (34 点中)
観点 4 : 言語についての知識理解	77%(18 点中)	71% (19 点中)	68%(14 点中)	69% (17 点中)

○自己表現後見直すようになった生徒が増えた。そのためスペルミスが減った生徒もいる。

【 7 . 結果の検証】

生徒への意識アンケート (5 月初旬、12 月下旬実施) 結果 (2 年生 2 0 名、3 年生 2 4 名対象)

	英語学習の中で楽しいと感じるのは どんなところ				英語学習の中で難しいと感じるのは どんなところ				英語を勉強する中で身につけたいと 思っている力は何			
	3 年 生		2 年 生		3 年 生		2 年 生		3 年 生		2 年 生	
	5 月	1 2 月	5 月	1 2 月	5 月	1 2 月	5 月	1 2 月	5 月	1 2 月	5 月	1 2 月
聞くこと	3 5 %	4 5 %	2 1 %	2 6 %	4 8 %	3 %	4 7 %	7 3 %	6 1 %	5 0 %	7 4 %	4 7 %
話すこと	5 7 %	6 5 %	6 3 %	3 7 %	1 3 %	1 5 %	2 1 %	5 2 %	6 1 %	4 5 %	6 3 %	4 2 %
読むこと	4 3 %	6 5 %	2 6 %	3 2 %	1 7 %	1 0 %	3 2 %	3 2 %	3 0 %	2 5 %	4 7 %	4 7 %
内容の把握	1 7 %	5 %	1 1 %	1 6 %	3 5 %	5 0 %	5 3 %	4 7 %	3 0 %	6 5 %	4 7 %	5 2 %
書くこと	2 6 %	1 5 %	1 6 %	1 6 %	3 9 %	5 5 %	4 7 %	5 7 %	2 2 %	3 0 %	2 1 %	2 6 %
自分の言いたいことを書くこと	4 %	2 0 %	3 2 %	3 7 %	6 1 %	6 5 %	4 7 %	5 7 %	6 1 %	8 0 %	4 7 %	9 4 %

授業評価の結果より (F D 内「切磋琢磨集計」参照)

○仮説 1 の E.S.E 改良版に多く取り組んだ 3 年生はかなり自己表現に自信と意欲が上がった。同時に自己表現の難

しさと必要性も実感したため上記のような数値がでてきた。

- 2 年生は取り組む期間が短かったため、「難しい。書く時間を増やしてほしい。」という声が多く、今後継続していけば自信につながられそうである。

【 8 . 成果と今後の課題】

生徒をよく観察し、アンケートから生徒のニーズを探り、テスト等での測定結果の分析により、リサーチすべき

課題を発見できた。そして、その課題についてテスト結果を示しながら、生徒にも説明することで、同じ目的意識・

到達目標のもと授業に臨むことができた。2学期は忙しさにかまけてしまい、よりきめ細かい実践、検証の繰り返しが不十分だった。しかし、スパルミ対策のため新たに仮説3を設定、実践することで、正しく書こうとする姿勢が見られ始めた。自分の言いたいことを口頭でも書く活動でも意欲的に取り組む生徒が増えたことが大きな成果である。今後は「英語は覚えられない」と意欲が持てず、点数的にもしんどい生徒がやってみようと思える取り組みを考え、実践していく。このアクションリサーチを通して、英語嫌いな子を作るのは授業改善を怠る私の責任だと、改めて痛感した。